

地域情報化アドバイザー制度活用報告書（1日目）

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	室蘭市役所	代表者名	青山 剛
担当者部署	企画財政部	連絡先電話番号	0143-25-2712
担当者役職	主事	担当者氏名	澤田 証
住所	051-8511 北海道室蘭市1-2		

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	庄司 昌彦
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタイゼーションすることの意義等について詳しく教えてもらうことができた。 ・データ化することによって、市民や行政職員が受けるメリット（市民団体による情報提供は可能になることや、日常業務で使うデータをオープンデータで公開することを前提として管理することで、より効率的に業務がすすむこと）を理解することができた。 ・また、庄司先生は大学の教授や標準化システム検討委員会の座長を務めていることから、幅広い知見から理解しやすい説明の仕方であり、共感できる部分も多かった。
アドバイザーへの要望事項	特にありません。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）	活動時間（分）
3-1. 活動	2022年1月21日	13時30分	15時00分		90
	派遣形態	講演（オンライン）			

4. 報告書に関するAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="checkbox"/> 掲載可
------	---

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	職員（課長級～係員級）	25人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	オープンデータを含めてデータの扱い方や、業務での利用方法について理解できていない。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	職員の意識啓発（職員数が減少していき、行政職員の負担はますます増えるばかりであるため、いまからデータの扱い方やオープンデータとして公開し、多くの人間を巻き込んでいく必要があるということを意識していただきたい）	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンデータに関する基礎知識 ・データの扱い方（業務でどのように使って行くか）について、理解を深めたい 	
支援を受け改善又は解決された内容（具体的にご記入下さい）	オープンデータとして公開することが手間とならないように、本来業務でのデータの管理の方法を見直し、そのままオープンデータとして公開できることが望ましいということが理解できた。それによって、決まったフォーマットで更新し続けるだけでよく業務の効率化が図れると気づいた。また、データを管理するという視点で考えると非常に有効であることが理解できた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑤組織業務改善ができた

改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	特になし
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 他の自治体の先進事例をもっと聞きたいという声が多かった。また、オンライン研修ではなく、3日間のWS形式でやりたかったなど回答があった
5-3. 今後の計画 事業の最終的な目指す姿	最も当てはまるものリストより選択下さい ④予算以外で、今後取組む事項がある

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

自治体×データの展望

- 中規模都市以上の取組率が100%になったことにより自治体オープンデータは次の段階へ
 - 質の向上
 - 利活用の促進
 - 自治体の負担軽減 (小規模自治体問題)
- 良質なデータを整備公開することが行政の役割の大きな柱に
- 自治体システム標準化を通じて基幹業務をフルデジタル化しデータ生成・高付加価値化の自動化へ



フルデジタル化で良質のデータを生む行政へ

